

【本文】

如来の作願さがんをたづぬれば

苦悩うじょうの有う情じょうを捨てずして

回向えこうを首しゅとしたまひて

大悲心だいひしんをば成じょうじゅ 就せり

【意識】

阿弥陀如来様は、私たちの為に救いの願ねがいをお立てになられました。

苦しみ悩む私たちを見捨てず、

如来様ご自身が積み上げて来られた功徳を私たちの為に振り向けることを最優先さいえんげんにされることで、

大慈悲の願ねがい、誓ちかいを完成してくださいました。

【私の味わい】

『アラジンと魔法のランプ』で、主人公のアラジンは魔人ジーニーから三つの願いまで許されます。アラジンは考えた挙句、次の三つを願います。一つは、自分を王子にしてもらい、お金と地位を手に入れる願い。二つ目には、絶体絶命のピンチから助け出してもらい、自らの命を再び手に入れる願い。三つ目には、ジーニーが人間に成りたいという願いを、自分の願いとして告げます。最後に、自分の為ではない願いを申し出る、ということがとても印象的です。

上記において親鸞聖人は、阿弥陀様の願いは最初にまず私たちの為ありきであった、と仰います。アラジンが、自分の願いから段々と身近な人の願いと移行していくのに対して、阿弥陀様は自分ではなく全ての人の為から始まって、全ての人が幸せになれなければ自らの幸せはない、とまで願われたのです。同じ願いでも、出発点が違ちがうし、対象も違ちがうし、ゴールが違ちがいます。

何故、出発点が違ちがうのでしょうか。それは、ものの見方がまず違ちがうからです。

人間は、我他がたびし彼此、私、あなた、あっち、こっちと別物べつぶつに考えます。ガタピシのその名の通り、その考えが行き過ぎるところに立て付けの悪さ、隙間風が吹くような関係になります。しかし、仏様から見れば、仏様と私は自他一如じごいちじうです。自分の分身ぶんしんのように一体にご覧になるからこそ、放はなつておけないのです。これがお慈悲おひらみです(悠水)